



幼児期の親子を対象とした 性の多様性に対応したシナリオによる「いのちのおはなし会」の実践

杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻：佐々木裕子、藤田千春、長谷川和子、鈴木朋子

活動の背景

近年、性被害の低年齢化が深刻な社会問題となっており、国は2023年度より子供たちが性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう、全国の学校において「生命（いのち）の安全教育」を開始した。さらに、多様な性に関わるいじめや自殺を防ぐためにも、予防的取り組みの一環として子どもの発達段階に応じた就学前からの性教育が急務であり、さらに、周りの大人が命や性について正しい知識とスキルを持つための関わりが重要である。

活動の目的

- ① 子どもたちが命の大切さを理解し、自分や周りの友達を大切にできる
- ② 子どもたちがプライベートゾーンを理解し、体を守ることができる
- ③ 子どもたちがこころの性の多様性を理解し、自分とは違う友達を大切にできる
- ④ 周りの大人たちが子どもからの身体や性に関する質問に向き合い教育的関わりを考える機会となる

対象及び方法

手続き：保育園に直接、または三鷹市園長会にて依頼した。【第1部】 学生によるパネルシアターとエプロンシアター
対 象：三鷹市と近郊の保育園の4歳児・5歳児と保護者
方 法：おはなし会のプログラムに基づき2部構成とした。
資 料：「いのちやからだのことどう伝える」を配布

いのちの誕生、出産、男女の体のちがい、
プライベートゾーン、多様な心の性（30分）
【第2部】 赤ちゃん人形の抱っこ体験・振り返り（15分）

今年度の活動実績

今年度の活動は、13ヶ所の保育園で実施した(表1)。おはなし会に参加した子どもの総数は326名、保護者49名、活動に参加した学生はのべ52名であった。

【子どもたちの反応】 命の始まりから赤ちゃんの誕生までを実物大の胎児パネルと人形で説明するシーンでは、パネルをめくる度に歓声が上がり、赤ちゃん誕生の場面では“頑張れ！”と声を出して母親を応援する姿が見られた。プライベートゾーンという言葉は子ども達に浸透しており、洋服を着て守ること、清潔にすることは理解できているようであった。また、誰かにプライベートゾーンを見られたり触られそうになったときには“やめて！”と声に出す練習ができていた。

【保護者の反応】 子どもに生まれた時のことを聞かれてどのように伝えたらよいか悩んでいたが、子どもにわかりやすい言葉で話をするヒントが得られた、子どもが集中して聞いている姿が印象的だった、小学校に繋がる性教育を検討してほしいなど、肯定的な反応が多数聞かれた。

表1. 活動の概要

保育園	実施日	子ども	保護者
A	8月 7日AM	30	3
B	8月 8日AM	17	1
C	8月 8日PM	23	1
D	9月10日AM	40	7
E	2月26日AM	39	0
F	3月 3日AM	18	2
G	3月 3日PM	17	4
H	3月 4日AM	21	10
I	3月 4日PM	19	0
J	3月 6日AM	37	11
K	3月 6日PM	20	7
L	3月 7日AM	28	2
M	3月 7日PM	17	1



図. おはなし会の様子

まとめ・おはなし会の教育的効果

今年度の活動では、保護者の参加者数が49名であり、昨年度の20名から倍増した。保護者会と同日開催にするなど、保育園の働きかけによるところが大きい。保護者がおはなし会に参加したこと、また、自分の子どもと同じ場で参加できたことで、「子どもと同じ話を聞いたことが親子双方に意味があると感じた」「子どもの成長に伴う向き合い方を考えさせられた」「子どもがおはなし会のことを覚えていていつか自分で考えられる日が来ることを願いたい」など、おはなし会終了後に親子で振り返る機会になっていた。また、活動した学生は子どもたちの反応や真剣に話を聞く姿に感心し、「これからいのちの大切さや自分がかげがえのない存在だということを伝えていきたい」との思いを新たにしていた。保育園からの開催ニーズも高く、開催方法や時期の検討が今後の課題である。